



# 峠

## のふくろう通信

<http://www.e-fukurou.jp/>

ヒルトップ税理士法人

Tel:03-3441-3041 Fax:03-5421-7086

### おほびえやをびえの雲のめぐり来て夕立すなり粟津野の原

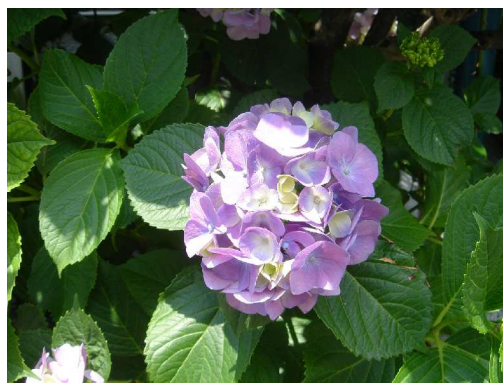
(賀茂真淵 賀茂翁家集より)

6月の株主総会時期を目前に、会社の命運を賭けた攻防戦が日々報道されています。

株主総会に向けて委任状争奪戦、会社防衛策の発動や株式公開買付の受諾など様々な展開を目の当たりにし、「会社とは何か」と改めて思案しています。会社の所有を巡る法的手段の応酬や株式買付金額の高低などに焦点が当てられがちですが、問われるべきは責任ある経営判断ではないかと思えます。適切な社会的責任を果たすべく行動することを株主にも望みたいものです。

昨年5月に施行された会社法においては、「会社とは何か」がより明確化され「会社とは株主のモノである」との整理が行われました。しかし、上場企業においてさえ米国型の委員会設置会社への移行が現実に進んでいないことから見ても、「会社とは株主のモノである」というだけでは企業経営が成り立たないことは明らかです。中堅中小企業にとりましては、会社法で新たに設けられた相続人に対する株式売渡請求など有効な制度を上手に活用していくことが重要です。

先日、携帯電話の調子がおかしくなり、あわてて修理に駆け込みました。10分程待った後「あまりに長期間電源を入れ続けますと、かような不具合が生じる場合がございます。今回の不具合は、電源を入れ直すことにより解消いたしました。」との診断を受けました。そういえばここ2年余り携帯電話の電源を切らず、ひたすら身につけていたことを思い出しました。我が携帯電話の色々な場面での活躍の記憶が甦り、むしろ感謝の念に満ち足りることができました。



私共も皆様方のお役に立つべく、各自の能力向上に努めている次第でございます。その成果といたしまして、8人目の税理士として小林良樹が税理士登録をいたしました。なお、今秋にも税理士登録をする予定者が2名在籍しており、税理士10名という目標達成も間もなくでございます。また、「電子申告」「電子帳簿」「電子ファイリング」の推進を通じ、ペーパーレス化と業務効率化を実現し、より一層皆様方のお力になれるよう努力して参りたいと考えております。

(副所長 杉山一紀)

ヒルトップ税理士法人

# 平成19年度 法人税税制改正のポイント

平成19年度の税制改正により、法人において注意すべきポイントを紹介させていただきます。  
これらは、弊事務所より皆様にお配りさせていただきました『改正税法特集号』に掲載されたものの中から抜粋して再度ご紹介し、その後明らかになった情報を加筆させていただくものです。

## 1. 減価償却制度の償却可能限度額の廃止

今年度の企業減税の柱として、減価償却制度が抜本改正されました。従来よりも減価償却を加速させることにより早期の資金回収・留保が図れますので、資金繰りにも好影響を及ぼします。  
これにより定率法・定額法の計算方法が変更されました。

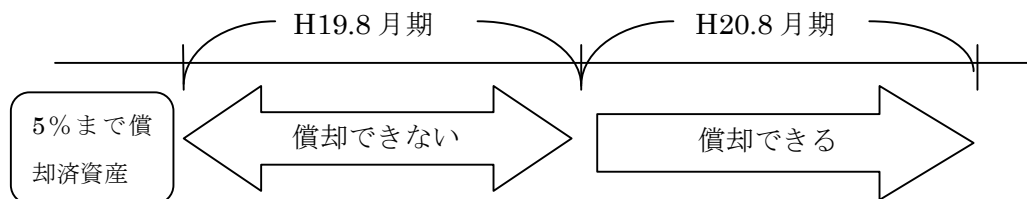
### (1) 平成19年4月1日以後に取得する減価償却資産

定率法の償却率は、定額法の償却率の2.5倍となり、従前よりかなりハイスピードになりました。また、償却可能限度額（取得価額の95%）及び残存価額は廃止され、備忘価額1円まで償却できます。

### (2) 平成19年3月31日までに取得した減価償却資産

平成19年3月31日までに取得された資産については、従前の定率法・定額法により計算されます。

なお、償却可能限度額まで償却した資産については、残額（取得価額の5%）を翌事業年度以後5年間で1円まで均等償却できることになりました。この取扱いは、平成19年4月1日以降に開始する事業年度から適用されますので、例えば8月決算の法人については、平成20年8月期から適用されます。



### (3) 償却方法の変更

定額法から定率法へ変更する場合等のように償却方法を変更する場合には、事業年度開始前に税務署へ届出ることが原則となります。

しかし、今般の改正措置として、平成19年4月1日以後、最初に終了する事業年度においては、その事業年度に係る確定申告書の提出期限までに変更の申請をす



れば変更が認められます。

例えば8月決算法人については、平成19年8月期に係る確定申告書の提出期限までに申請すれば、変更が出来ます。これについて利益調整の余地がある法人もあるかもしれませんが、翌事業年度以降は、従前通りの変更申請期限となりますので、安易な変更は控えた方が良いでしょう。

## 2. 中小同族会社の留保金課税の廃止

留保金課税とは、黒字会社の利益について株主への配当を抑制すること等により、必要以上に利益を法人内に留保した場合について、追加課税される法人税です。これは、個人株主へ配当したならば徴収できた所得税の補てんを図る趣旨により設けられているものです。

しかしながら、借入の返済が多額にある、積立金が多額にあること等の損益に関係のない事由による支出が多い企業にとってみれば、配当は出せず、利益を出さないと資金繰りが回らないことも中小企業には良くあることです。これについて、ようやく平成19年度改正により手当がなされ、**資本金1億円以下の法人**について、平成19年4月1日以降開始事業年度から廃止となりました。



(こばやし)

### 融資の際の必需品？ チェックリストを知ってあこらう！

「金融機関からの融資の際にチェックリストの提出を求められるようになった」

— そんな話を最近耳にする機会が多くなりました。

ここでいう「チェックリスト」とは正式名称「中小企業の会計に関する指針の適用に関するチェックリスト」といい、会社の決算内容が「中小企業の会計」に沿ったものであるかどうかをチェックする形式になっています。例えば、「減価償却は経営状況により任意に行うことなく、継続して規則的な償却を行ったか？」など、その項目は多岐にわたります。つまり、会社の恣意性が過度に働いていないかが重視されています。

当事務所でもこのチェック項目をなるべく満たすように、社長及び経理担当者と相談の上決算処理を行っています。

本チェックリストの提出による特典として「利息などの融資条件の緩和」「信用保証料の保証率の低下」などがあるようですので、実際にその場面に遭遇した際には私どもにご相談ください。

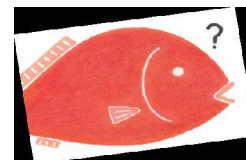
たかはしいよう

# 平成19年6月から住民税が増える!?

「税源移譲」と「定率減税廃止」の影響により、6月から負担する住民税が増加しています。

## 1. 税源移譲とは？

「地方のことは地方で」という方針のもと、地方分権を積極的に進めていく「三位一体改革」の柱となるのが「税源移譲」です。所得税（国税）と住民税（地方税）の税率を変えることで、国の税収が減り、地方の税収が増えることとなります。これにより、ほとんどの方は、1月分から所得税（国税）が減り、その分6月分から住民税（地方税）が増えることとなります。



### ●夫婦+子供2人の場合（年額）

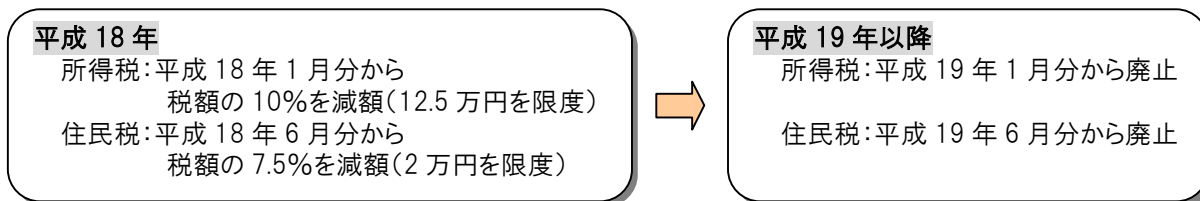
<総務省 報道資料より抜粋>

給与収入	税源移譲前(単位:円)			⇒	税源移譲後(単位:円)			=	負担増減額
	所得税	住民税	合計		所得税	住民税	合計		
500万円	119,000	76,000	195,000		59,500	135,500	195,000		0円
700万円	263,000	196,000	459,000		165,500	293,500	459,000		0円
1,000万円	688,000	442,000	1,130,000		590,500	539,500	1,130,000		0円

モデルケースのように、税源移譲に伴う個々の納税者の負担合計は税源移譲前と移譲後とは変わりませんが、実は、**定率減税が廃止されたことにより、全体の負担額は増加しています。**

## 2. 定率減税の廃止

平成11年から景気対策のため暫定的な税負担の軽減措置として導入されていた定率減税が、最近の経済状況を踏まえて廃止されました。



### ●夫婦+子供2人、給与収入700万円の場合（年額）

平成18年		⇒	平成19年以降	
所得税	263,000円		所得税	165,500円
定率減税	△26,300円	住民税	293,500円	
住民税	196,000円	合計	459,000円	
定率減税	△14,700円			
合計	418,000円			

6月から負担する住民税が多くの人で増えるため、政府と自治体が税源移譲についての広報活動を積極的に行っていますが、もう一つの要因である定率減税の廃止の説明は少ないのが現状のようです。  
(まるやま)



ヒルトップ税理士法人

# あなたは賛成？反対？ 「ふるさと納税」

Şí | â Ô Ç " ú á Ð é Ÿ ð Ð ã&Şç æ¥ ' â Ô Æ9ëû » â Ô Æ9ë  
Â(^%lé ± Ž â ê " ð Ð ã&Şç é É | æ0 Ì á } - Ç0 » Ž ü Ú ã Ž Ó á Á ù Ô •  
ð Ð ã&Şç ã ê " \$s Ú Ü X q é Ñ Ñ \$ç é û 1ñ !ç ù (' Þ Ú !, á ä " Ñ² p • é • é) D &  
Õ æ&Şf Ô Í ã Ç â È Ù 2 á Ô •

X q é Ñ Ñ \$ç ê " è é² ç n \$ ã Ò á " 9Ý-9Ý ä û ÷ é Ñ² p9 Õ Ñ Ñ \$ ? é ² ÷ p9 Õ æ Ø é  
½ é Ñ Ñ \$ç é K5õ &Şf Ô Í ã ä á Þ á ç ù Ô • p Ç â !ç ù (' Þ Ú q á ý " ò i æ Ñ-Ñ Ò  
P(o Ò Ú • ' æ è " û ÷ Ñ á ç ò i é Ñ² p æ Ñ Ñ \$ç &Şü Í ã æ á ù Ô •

Î é Ñ Ñ \$ç ÇŸ "É/v Ú ã ä Ô \$ç2,, á ½ Æ á Ô •  
Ñ Ñ \$ç ê Ø Ù é) D & Õ Ç - Ô / æ " -4• " ' R £ ! " "ö K Ž (' á ä " !ç t æ P I j Ò Ú O R (o F , Ì Ú ü é ±2,,  
) H p - Ô ý é ä Ð á ç ù Ô •



ð Ð ã&Şç é .3/ð æ è ") D & Õ Æ Ì "É y û ÷ é  
"É Û Ì ä ä È " !ç ù á Æ û ÷ ù ä é "É æ # "á Ò á " !ç ù  
( ' Þ Ú !, æ ý & Şç ã È Á æ Ô ã ç Á ý é ä Ô •² ç ª ç á È Á æ á Þ Ú) D ½ ('  
á á È Ú !, æ õ .á Ò " Ñ Ñ \$ç é û 1ñ ð Ð ã æ&Şf Ò á " ð Ð ã " Ó Í Á ä ç Á "  
Ð á é ä Ò Á •

Ò Æ Ò " ð Ð ã&Şç æ ß ç á è \$...\$ç - ç5õ Ç ½ ä ý. á ç ù Ô • Ø é U Õ " ã & Ş  
\$ç Ç : è ù Û × ý ÿ ù Þ á ç ù Ò Ç " 5 æ X q Ç ð Ð ã æ \$ç5õ é û 1ñ &Şf Ò á "# Õ o!³ T  
é ( æ Ä Õ é Ñ Ñ \$ç Æ ð Ð ã&Şç ½ " 4° Ô " \$ç5õ " 4° Ç | Ç - z ä Ð á ç ù Ô • Ø  
Á Ô ã " (\ ] o Q f é Á æ æ - é . 0 ý ü " Ä.ž › æ Þ á # Õ o!³ T Ç " í ! Û Ð á ç  
q é • ' é " ð Ð ã&Şç é Ú ü æ Ñ Ñ # Õ o!³ T Ô -Ð Ç !ç Õ Í ã æ á ù Ô •

ð Ð ã&Şç É | æ è » 4 F ä ý ç & , ; Ç Æ Æ " Ú Ò á Ø æ x ' Á Û Ì é & Şç Ç ½ é  
Æ ä !ü ç -Þ Ô -x Ç ý ½ Á á Ô •

\$s ä Ò á è Ÿ ð Ð ã&Şç 9ë ä Ü á ý • ä ç Á % • á Ô • û ÷ \$s é " © • Ò Ñ á Ô Ç "  
!ç ù ý (' Ü ý ò i 1ú ¹ TM ä Ô é á " ¹ TM æ " .d æ á Þ Ú ã ç Á Ç , Ü è ½ ù Ô Ò "  
¹ TM æ&Şç Ò á ý ç Æ á ã A Þ á ç ù Ô •

Ò Æ Ò " á × Í á ( ¼ æ 9ë ä A ç ù Ô •  
2,, é Ó ü ä Ô \$³ ; 4 Ú é ç5õ " : q \$ç s 2 \$ç ,  
é .ž › " -/ Çç , 6 J % ! " .-5õ è \$Í ú á è Õ ä Ô •  
ð Ð ã&Şç ý " 2 € Ð á P 5 Ä æ . " / .° é ( 4 F  
ç á ý ç Ú ç ý é ä Ô • ç & 9 À